

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191200072		
法人名	九州メディカル・サービス 株式会社		
事業所名	グループホーム安心なかばる		
所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字原古賀190-3		
自己評価作成日	平成24年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成24年10月19日	外部評価確定日	平成24年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホーム安心なかばるは、仁徳会今村病院が医療連携機関であり、訪問看護ステーションあんしんとも連携を図っているため、医療面としては他のグループホームより充実していると思います。 また、最近では地域の行事に参加をするようになり、地域の方との交流も少しずつではありますが、取れてきていると思います。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、みやき町の旧中原の中心地に位置しており、周辺にはみやき町中原支所・銀行・郵便局・医院・小学校・高校があり、JR中原駅やバス停から5分程の交通の便にも恵まれている。高台にある事業所のリビングからは、眼下の東西に走る国道34号線の人や車の往来も一望出来、又、寒水川や田畑の広がりも見れて四季折々を感じる事が出来る。事業所の代表は医師で、週1回の割合で在宅総合診療をしており、病院と訪問看護ステーションとは24時間対応が出来、職員にも看護師が2名配置されているなど、医療面に手厚く配慮して入居者が安心して暮らせるような体制で支援に取り組んでいる。</p>
--

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟)	自己評価／ユニットB(B棟)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づきスタッフで、毎朝朝礼時に復唱して実践を心掛けている。	ホームの理念・クレドに基づき運営し、毎朝朝礼時に復唱を行い、再度確認を行っている。	職員全員で作り上げた理念「いかなるときも入居者本位の運営を行い、元気で楽しく生きがいのある生活を支援します」を毎朝の申し送り時に唱和し、意識付けをして実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年の夏は地区の夏祭りに参加させていただき、利用者の方と楽しい時間を過ごせたと思う。	行事時に区長様に来て頂いたり、近隣の祭り等に参加している。	日々の散歩や買い物時に声かけをしてもらったり、校区の夏祭りに参加したり、文化祭の見物に行く等地域の方々と楽しいひと時を過ごせている。近隣の方からは、野菜等の差し入れを戴いたりもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解をして頂きたいので、支援の方法を地域の人々に向けて活かしていきたいと思っている。	認知症の理解、支援など知ってもらいたいとは思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加していただいた方の意見を参考に、改善していくことを心掛けたい。	二ヶ月に一度開催し、事業所に対する要望は改善するよう努めている。	運営推進会議は2カ月に1回開催されている。介護保険組合・地域包括支援センターの職員・区長・民生委員・入居者の家族の出席を得、事業所の取組状況等の報告や計画を説明し、双方の意見も活発に出ている。意見は、サービス向上に活かすよう努力している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議やネットワーク会議などへ積極的に参加をしたり、必要に応じて連絡を取り、良好な関係を保つようになっている。	地域ケア会議に参加し、情報交換を行っている。	管理者は3ヶ月に1回の地域ケア会議(校区内の事業所)に参加し、行政の職員とも交流して情報交換を行い、事業所の実情やケアサービスの取組み等も相談するなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の方の安全を考慮し、必要があれば御家族に同意を得て行う場合もある。	身体的拘束は行わないよう指導している。ただし、利用者様の命の危険が生じる場合などは御家族様に説明し、同意を得て行う場合もある。	職員は、身体拘束の弊害や禁止をよく理解しており、現在、拘束はない。入居者の安全の為に止むをえず実施に至る時は、家族の同意を得るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度のカンファレンスにて、最善の方法を取り、虐待防止に努めている。	カンファレンス等での話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員一人一人理解していく為に勉強会を行うべきではあるが、なかなか実践まではできていない。	理解している職員は少ない。勉強会などに積極的に参加してもらおう。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が書類の説明をし、納得していただいている。	管理者立会い説明を行っている。質問等は随時行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のご希望に沿えるよう家族の方と話し合いをして改善していきたい。	利用者様、御家族様の希望に添えるよう努めている。意見箱も設置している。	家族の面会時や行事に参加される時には必ず声かけをして、なんでも言ってもらえる雰囲気づくりに心掛けている。出された意見や要望は職員間で検討し、運営に反映するようにしている。玄関には、意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを行って話し合いをし、管理者へ意見をいう機会を設けている。	月に一度のカンファレンス時に意見や改善策を報告している。	管理者は、日常の業務の中では棟リーダーが、また、毎月の職員会議で、職員の要望や意見を聞き運営に活かしている。又要望や問題点等については統括管理者との協議を3ヶ月毎に行い、代表者に繋げてもらうようにしている。事業所の代表である医師も週1回の往診時に職員と接して緊密な関係を構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の改善点は職員で話し合い、管理者へ報告し、管理者は同法人の会議にて報告している。	現場の意見は管理者へ報告している。管理者は同法人内の会議にて現状報告を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内のカンファレンスにて勉強会を行っている。年に2回人事考課を行い、面談等行っている。	同法人、ホーム内のカンファにて勉強会を行っている。年2回人事考課を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われている会議等に参加し、交流を深め、質の向上に努めている。	同法人や地域の勉強会に参加し、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟)	自己評価／ユニットB(B棟)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者には、施設を見学して頂き、納得して利用してもらえるよう説明している。	入居希望者には施設見学、説明を十分に行い、納得して利用してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族には十分納得いくよう説明を行い、不安・要望を聞き入れている。	御家族様には十分な説明を行い、不安・要望を聞き納得して利用してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望者には、施設見学を行い意見や要望を聞き入れ、希望に添えるよう努めている。	入居希望者には説明と施設見学を行い、希望に添えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いの関係を大切に、暮らしを共にする家庭的な環境を心がけている。	お互いに協力し家庭的な環境を築けるよう心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や催し物を開き、御家族様を招待し交流を深め、情報交換を行っている。	催し物を楽しめる会を開いて御家族との交流を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人、近所の方も面会あり。希望があれば電話の支援も行っている。	知人の面会も多い。希望あれば電話もかけられるよう支援している。	毎月の行事計画では、季節毎の花見やイベント参加等や個人の希望の買い物へ出掛けるようしており、馴染みの人や場所との関係が途切れない様な支援に努めている。又、知人・友人の面会や訪問も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、仲良く孤立することなく、安心した生活が送れるよう支援している。	利用者個人の性格などを把握し、関わり合いがもてるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去や転居後でも必要に応じ相談に乗れるよう努めている。	退去、転居後でも相談できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりに希望を確認し、出来るだけ暮らしやすく希望に添った生活を支援している。	御本人の希望を確認し、できるだけ希望に添えるよう努めている。	日常の会話や表情から一人ひとりの思いを把握し、家族の意向も参酌しながら、全職員でカンファレンス時に話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、御家族様の希望に出来るだけ沿ったサービスが提供出来るように努めている。	入居者様の希望に添ったサービスができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの現状、状況を記録に残し、職員一人ひとりが把握できるように努めている。	入居者様の希望に添ったサービスができるよう努めている。状況を記録し、職員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、御家族様、職員が意見やアイデアを出し合い、よいケアが出来るよう努めている。	本人様、御家族様、職員の意見を聞き、介護計画を作成している。	一人ひとり介護担当を決めており、利用者がよりよく暮らしていけるよう本人・家族・職員関係者で話し合い、介護計画を作成している。介護計画は定期的に評価と見直しを行い、現状に沿った計画で支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中で、気付いた点などがあれば、個人記録に残し介護計画に活用している。	ケアの中で気づきがあれば個人記録に記入し、介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に、その時々に対応し、出来る限りのサービスを支援できるように努めている。	職員で話し合い、出来る限りのサービス支援をできるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の資源を、うまく活用して安心して暮らしていけるように支援している。	地域資源の把握ができていないが、安全な生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医がある場合は、出来る限り継続できるよう支援している。 また、法人内に連携病院もあるため、連携を図っている。	入居前よりかかりつけ医がある場合は可能な限り継続できるよう支援している。関連の医療機関に連携している。	入居前からのかかりつけ医がある場合は、家族の協力の下に継続受診が支援されている。協力医療機関での受診は職員が対応しており、週1回の在宅総合診療や訪問看護ステーションの診療がなされ、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々状態観察を行い、異常があればすぐ医師、看護師に報告し、適切な受診や看護を受けられるよう努めている。	状態観察を行い、看護師、訪問看護師に報告し受診が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関連医療機関と情報交換し、状況を把握して早期退院ができるように努めている。	関係医療機関と連携し、情報交換を行い、早期退院につながるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時本人様、御家族様の希望を聞き、主治医、職員が連携し援助できるよう努めている。	入居時御本人様や御家族様の希望を聞き、主治医、看護師、職員が連携し支援できるよう努めている。	入居契約時に、重症化した時の本人や家族の希望を聞いているが、直面した時には再確認をしている。主治医・看護師・職員が連携し、看取りの支援を実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応できるようマニュアルを作成し、実践できるよう努めている。	急変時のマニュアル作成し、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防火訓練を行い、その際消防署の指導を受けている。	年に2回の防火訓練を行い、消防署の指導を受けている。	年2回、消防署の指導をうけながら昼夜を想定した火災時の通報や避難訓練を実施している。防災機器やスプリングラーの点検も定期的にも実施している。	夜間の職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、地域住民の参加協力を得た訓練の実施も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟)	自己評価／ユニットB(B棟)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとり常に心掛けている。	職員は常に心掛けている。また、カンファレンス等にて再確認を行っている。	入居者の人格の尊重とプライバシーに配慮した言葉かけや対応を心掛けている。職員は、入居者を人生の先輩として接遇している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者様の話聞き、希望に沿えるよう心掛けている。	利用者様の話聞き、希望に沿えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調に合わせ、本人の意見も聞き、生きがいのある楽しい1日を過ごして頂けるよう努めている。	本人様の意見を聞き、決めるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば訪問美容の方に来て頂き、カットや白髪染めをされたりしている。	希望あれば、美容室に行ったり、ごたまにはあるが、化粧をしてあげたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事用のエプロンなどの準備や下膳など、出来る範囲を一緒に行っている。一日のメニューをホワイトボードに記入し、その日の献立がわかるようにしている。	食器片付けや台ふきなどできる範囲のことは一緒に行っている。	食材は業者の配達で、調理手順とカロリーまで計算され省力化されている。誕生会等には入居者の好みのメニューを加える等工夫している。リビングにはその日のメニューが記載され、食事が楽しみとなっている。入居者ができる範囲の手伝いがされており、職員は食事を一緒にしながら介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態にあった食事の形状にしている。栄養のバランスが把握できるようにしている。	利用者様の状態に合わせた食事の形状を取っている。また栄養のバランスが把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず一人ひとりその人にあった口腔ケアを行っている。	個別にケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟)	自己評価／ユニットB(B棟)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄の記録をし日中は、なるべく紙パンツを使用しないようトイレ誘導して、その人にあった支援を行っている。	オムツの使用をできるだけなくし、日中はトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄記録を把握し、日中はトイレ誘導を行っている。リハビリパンツにパットを使用する等その人にあった支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘をしない様、排便コントロールを行い、毎日1回は、ゆっくりトイレの便器に座っていただく。	出来るだけ薬に頼らず、水分補給や腹部マッサージ等行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの体調をみて、入浴日を変えたり、その人に応じた入浴の支援を行っている。	入浴日は決まっているが、別ユニットと入浴時間が異なるため、ある程度の要望に応えることはできる。	週2回の入浴と足浴を組み合わせ支援している。希望があれば何時でも入浴出来る体制となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が良眠出来る室温陽切など、その人にあった入眠を心掛けている。	入居者の状態に応じて安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週1回の先生の訪問診察をして頂き、薬のチェックを行い、服薬の変更時はその都度職員に説明して理解してもらっている。	処方箋は職員がいつでも見れるようになっている。服薬変更追加時はその都度看護師より説明受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活を継続できるようにその人にあった支援を心がけ安心して過ごしていただけるよう努めている。	今まで送られていた生活が継続できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には出来る限り外出できるように努めている。御家族、地域の方の協力もある。	天気の良い日は外出できるように努めている。家族の協力もある。	天気の良い日には戸外にでかけている。ホームの敷地に隣接して空地があり、広々としていて解放感がある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はお金をもたれている。	自己管理が出来る方は持たれている。 外出の際には買い物等もされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば直接電話できるよう支援している。	希望があれば電話ができるよう支援している。入居者様より御家族へ季節のお手紙を出す支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内を利用者様が季節がわかるように季節にあつた飾り付けをしたり、花を生けたり、居心地よく過ごしていただけるよう支援している。	季節の花などを飾り、落ち着いた生活ができるよう工夫している。	事業所内は木造りを基調とした設えで、天井を高くし、明り取りがあり、南の日当たりの良い一角には高床の畳敷きもあり、入居者の寛ぎの場所となっている。又、季節の催しや飾りつけの場ともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室、和室、フロアなど落ち着いて過ごせる場所がある。	独りになれる個室や、フロアにはソファもあり、落ち着いて過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた家具などを持ってきていただき、利用者様にとって安心していただける環境を提供している。	長年使い慣れたものを持ってきてもらい、安心できる環境を提供している。	入居前からの使い慣れたソファや小物を置いたり、家族の写真等を飾り、日々居心地良く安心して過ごせる環境づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの性格、特徴を活かし、自立した生活が送れるよう支援している。	個人の特徴を把握し、自分らしく生活できるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)			1. ほぼ全ての利用者の
		○	○	2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)			1. 毎日ある
		○	○	2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○		1. ほぼ全ての利用者が
			○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○		1. ほぼ全ての利用者が
			○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		○	○	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目:30,31)			1. ほぼ全ての利用者が
		○	○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない